

晴れやかに 二十歳の門出 平成22年度成人式

1月9日、二十歳の門出を祝う「成人式」を中央公民館で開催しました。本年度新たに成人を迎えたのは、平成2年4月2日から平成3年4月1日までに生まれた388人。式で風間市長は、「大きな夢を持って大いに羽ばたいてほしい」と新成人にエールを送り、実行委員長の高橋悠樹さん（白川津田）と副実行委員長の目下汐莉さん（福岡八宮）が「広い視野を持って、流行に流されることなく、自分に責任を持ちたい」と誓いました。また、新成人自らが「地域福祉のために」と寄付を呼び掛け、寄付金がNPO法人白石うぐいす会に贈呈されました。



▲成人としての抱負を述べる高橋さん（右）と目下さん

それぞれのゴールを目指して 2011元旦「けり初め」



▲ひとつのボールに真剣・笑顔

1月1日、サッカーマン恒例の行事「けり初め」が白石川サッカー公園で開催されました。絶好のサッカー日よりとなった今年は、小学生から60歳代まで約70人が参加。4チームに分かれて紅白戦を行い、新しい年に期待を込めながらゴールを目指していました。

参加者は、「けり初めに参加しないと1年が始まらない」「いい1年になるように全力でボールを追いかけてました」と話してくれました。

白石サッカー協会（大宮信明会長）が主催するこの行事は、昭和43年に始まり今年で43回目を迎えました。

2011年が良い年でありますように 除夜の鐘を鳴らす会

12月31日、大みそかの恒例行事「除夜の鐘を鳴らす会」が白石城本丸内の鐘堂で開催されました。厳しい寒さの中、白石城には家族連れやカップル、受験生など約320人が来場。「2011年も健康でありますように」「志望校・企業に合格できますように」「良縁に恵まれますように」など、それぞれの思いを胸に鐘を打ち鳴らしていました。

また、31日と1月1日は、広告代理店「博報堂」の協力により白石城をLED照明でライトアップ。赤やオレンジ、緑など普段とは違った白石城に、来場者は歓声を上げていました。



▲思いが込められた鐘の音が城下町に鳴り響いていました

「じぶんをまもること」を楽しく親子で勉強 越河小でDonald防犯教室



▲防犯教室では場面を想定した寸劇を実践！

12月9日、マクドナルドのキャラクター「Donald・マクドナルド」が越河小学校を訪れ、児童と保護者を対象に「食育・防犯教室」を開催しました。同小PTA（古山智子会長）の働き掛けにより実現した今回の教室。Donaldと一緒にマクドナルド「4号線白石店」のスタッフが訪れ、1年生を対象に「食育教室」、全校児童を対象に「防犯教室」を行いました。教室では、「バランスの良い献立」を絵を使って分かりやすく説明したり、「知らない人に声を掛けられたとき」などの対応方法を児童たちと一緒に考えたりと、親子で楽しく学びました。

小正月の伝統行事「団子さし」を開催しました



1_笑顔いっぱいにもちつき 2_ミズキの木にもちの花を咲かせる園児たち
3_「花が咲いた」と喜ぶ園児たち 4_お殿様と一緒に団子さしをする園児

■地域の皆さんと一緒に団子さしともちつきを開催

1月7日、北保育園で「団子さし」を開催しました。同園では、毎年恒例となっているこの行事。地元の沖自治会の皆さんも手伝いに訪れました。

エプロンとバンダナに身を包んだ園児たちは、団子さしの由来などを大庭美智子さんから聞いた後、団子にするためのもちつきに挑戦。「ヨイショ〜！」と元気な声を掛けながら、きねでもちをつきました。園児たちがついたもちや赤や緑、黄色に染めて丸い団子に。ミズキの木の一つずつ丁寧に飾り付けました。最後は、みんなでおもちを食べながら、小正月を祝いました。

■白石城でお殿様と一緒に団子さしを体験

1月13日、ひかり幼稚園の園児約40人が、白石城で「団子さし」を体験しました。この催しは、白石市文化体育振興財団が、家庭で行われることが少なくなった、豊作や健康、商売繁盛を願う「小正月」の伝統行事を子どもたちに体験させ、後生に伝えようと初めて企画したものです。この日は、白石戦国武将隊奥州片倉組の「片倉小十郎」や「ポチ武者こじゅーろう」と一緒に、用意された約500個の紅白だんごや宝船などを、高さ約3mのミズキの木にさし「花が咲いたみたい」「きれいだね」と喜んでいました。

さわやかな気持ちで新年を迎える 白石城一周元旦マラソン

1月1日、白石高校陸上競技部OB会（菱沼宏一郎会長）が主催する恒例の「白石城一周元旦マラソン」が開催されました。市内外から約80人が参加して心地よい汗を流し、さわやかな気持ちで新年を迎えました。

参加者たちは、スタートの合図とともに一斉に駆け出し、白い息を吐きながら思い思いのペースで、約2.5kmのコースの走り初めを行いました。

参加者は、「天候にも恵まれ気持ち良く走れました。今年も良いことがある1年になってほしいです」と話してくれました。



▲一斉に駆け出す参加者たち

伝統を受け継ぐ 「小原たいけん教室」しめ縄づくり



▲真剣な表情でしめ縄をつくる児童

12月9日、子どもたちが地域に伝わる伝統行事への理解を深めることを目的とした「小原たいけん教室」が、検断屋敷で開催されました。今回の教室には、小原小中学校の児童・生徒約20人が参加。しめ縄づくりと、きねと臼を使った昔ながらのもちつきを体験しました。

しめ縄づくりでは、講師を務めた小室叡さんの指導を受けながら、それぞれ大きさや形が異なる個性豊かなしめ縄が出来上がりました。参加した児童は、「簡単だと思っていたけれど、縄結びが難しかったです」と話してくれました。